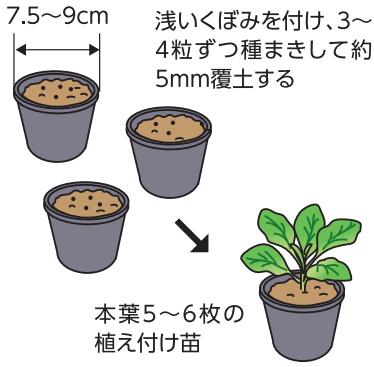


図1 ポット育苗

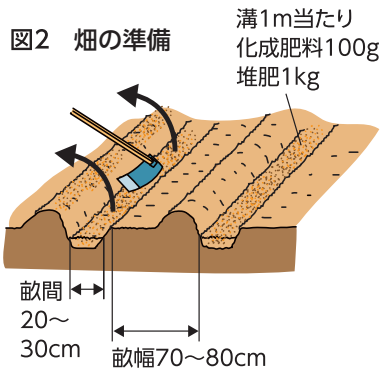


【品種】
秋採りに適した「初秋」（タキイ種苗）や「新藍」（サカタのタネ）は葉が柔らかい良食味の品種です。

キャベツは、生育適温が約20℃と冷涼な気候を好みますが、栽培初期は高温や低温に強い野菜です。最も育てやすいのは、夏まき秋冬採りで、早生品種は7月上旬、下旬に種まきし3カ月程度、中晩生種は7月下旬〜8月中旬に種まきし4〜5カ月で収穫できます。



図2 畑の準備

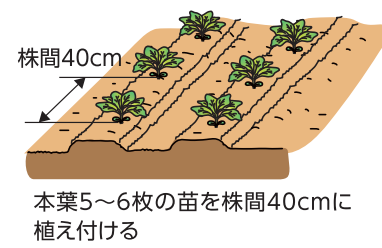


程度畑にまいて、よく耕します。次に70〜80cmの間隔で深さと幅が20cmの溝を掘り、溝1mあたりN・P・K比各10%の化成肥料(固形30号など)100gと堆肥1kgを施します。

【畑の準備】
苦土石灰を1mにつき100g程度畑にまいて、よく耕します。次に70〜80cmの間隔で深さと幅が20cmの溝を掘り、溝1mあたりN・P・K比各10%の化成肥料(固形30号など)100gと堆肥1kgを施します。

冬採りには、中晩生種で甘味のある「彩音」（タキイ種苗）、「冬藍」（サカタのタネ）もお薦めです。

図3 植え付け



【病害虫の防除と収穫】
ヨトウムシやコナガの被害が多いので、生育初期は防虫ネットで予防し、生育が進んだらオルトラン水和剤などで駆除しましょう。

【追肥】
本葉10枚の頃、株の周りに化成肥料を1株あたり約10gまいて、株元に土寄せします。2回目はその20日後に同量を畝の両側にまき、土寄せします。

ここに土をよく混ぜて幅70〜80cmの畝を立てます(図2)。

【植え付け】
本葉5〜6枚の頃、株間を40cm程度開けて植え付けます(図3)。この時、植え穴に水やりすると、苗がスムーズに活着します。

葉先に黒い病斑が出る黒腐病はZボルドーなどで予防します。
球が肥大し、やや堅く締まってくれば収穫期です。

本文で紹介した種子などは、JAでお取り寄せできます

肥料・農薬のご紹介

ナメクジ退治には

「スラゴ」



梅雨になると、ナメクジやカタツムリが這い回って農作物を汚したり食い荒らしたりします。そこで役立つのが「スラゴ」！様々な作物に使える、効果的で便利なナメクジ駆除剤です。

「スラゴ」の特徴

- ①天然物由来の成分だから安全で化学合成農薬の使用回数にカウントされない
- ②雨や湿気に強く崩れにくい
- ③有用な昆虫への影響が少ない
- ④花壇や作物の株元にパラパラとまくだけのお手軽散布
- ⑤収穫直前まで使える

梅雨時のナメクジ・カタツムリ被害にお悩みの方は、ぜひ一度、お試しください。

※ご不明な点は各営農センターへお気軽にお問い合わせください